

# space Kid's Carnival

一般社団法人 CIS

〒165-0031 東京都中野区上鷲宮 4-6-20 イサカビル 2F

## 助成事業の概要

楽器の趣味を持たない人が人生で最も楽器に触れる時間であろう音楽の授業において、支援学級及び支援学校の音楽授業で扱う楽器の種類は通常級のそれよりもずっと少ない。

障害をもつ子どもたちに、楽器を演奏する面白さ、みんなでひとつのことを完成させる楽しさ、できないことができるようになる達成感を感じ取ってもらい、そして舞台に立ち観客の前で演奏をし拍手をもらうことで「誰にでも輝ける場所はある」ことを知り自信に繋げていってもらえることを目標に、7 月より募集開始し 9 月から練習を開始。月に 1 度の練習や普段のお預かり中の自主練習などを通して 12 月 28 日の本番を目指す。

学校の音楽発表会のような形式だったステージではなく、各々が心から楽しみ自主的に参加できるようなプログラムやマイクを使用した歌、ギター、ドラム、ダンスなど、ここでしかできない体験を提供する。

## 事業の成果

想定を上回る参加希望が来たため、年齢や児童の障害の特性などに応じて映像として参加のグループとステージに立つグループに分け実施。またどちらのグループにおいても保護者の参加を可とした。本番では映像に合わせてステージでダンスや演奏をするなど、グループの隔てなく全員でひとつの音楽会を作りあげることができた。

映像での参加グループは 11 月 19 日(土)に当事業所施設である space Kid' s.con 鷲宮にて撮影。撮影及び映像編集は外部へ委託。事前に収録曲を伝え各家庭にて練習をお願いしていたところ、撮影当日は親子で笑顔で歌い踊る姿が見られた。

ステージ参加グループとしては、12 月 27 日(水)に前日リハーサルとし本番と同じく練馬区生涯学習センターにて実施。本番当日の流れや細かい修正などを児童たちの意見も交え話し合う。

12 月 28 日(木)の本番当日においては児童たちに極度の緊張の様子はなく、これまでの練習の中で不必要なプレッシャーや過度な叱責等をせず伸び伸びと参加してもらうことに重きを置いていた方針が功を奏したように感じた。全員が笑顔で最後まで終えることができ、誰もミスを悔やむ様子はなく終始楽しんで参加できていたように思う。

また施設を利用する児童や職員、参加児童の保護者を観覧に招き、手拍子や一緒に歌ったり舞台上に上がって踊ったりと会場全体が一体となって楽しむことができた。初めて広いステージで子どもたちが歌ったり演奏をしたり踊る姿を観て、刺激や感動を与えることもできていたと感じる。

一方で、舞台上に装飾がなく質素であったことや衣装に指定のないこと、明るい・暗いだけの照明など、やや視覚的な盛り上がりには欠けていたことは否めない。また大きな音に対して敏感な児童が観覧に来ていたため、障害児ということ念頭に置いた配慮なども必要であったことは反省点として挙げられる。それらを加味した上でも、次

回開催を望む声が事業所内外からあることを考えると初回開催としては成功したと実感している。

## ■ 成果の広報・公表

隔月で利用者へ発行しているお便り『space Kid's 通信』の令和 6 年 3 月号において公表予定。保護者のみならず、利用児童にも伝わるような文章・構成をし報告をする。

また facebook や X 等の事業所アカウントでも発信するほか、YouTube にて期間限定にて配信をし、当日観覧に来られなかった児童や保護者へも催しの様子を伝え、参加児童の楽しんでいる姿を広く見てもらっている。

初回開催のため保護者や利用児童にとって見通しが立たなかった部分が多く、公表・公開により本番時の雰囲気を感じ取ってもらい、次回以降の開催に際してはより多くの利用者が参加しやすくなるものと考えている。

また YouTube での配信により、児童とその家族と一緒に観ることで家庭においても楽しさの共有や次回参加したい・させたいという気持ちの共有が家庭で直接的にできると考えている。

## ■ 今後の展開

当法人、一般社団法人 CIS が開業 10 周年を迎えたことに際し、来年度はこれまでの当事業所の歩みの様子や、現在利用している児童たちによる様々な作品を製作してもらい展示をする展覧会を実施予定。外部講師の招聘や通常の施設利用とは別に製作の時間を設けるなど、今回の音楽会同様に初の試みとして練馬区内の施設を借り開催する。

4 月頃を目処に参加児童の募集、得意なことやチャレンジ精神を尊重しながら数名ずつのクラスを開催し、工作・絵画を中心に集中できる環境を

整えながら取り組むことで達成感や自己肯定感を感じてもらおう。また児童によっては作品作りを通して気持ちを落ち着かせ、セラピーとしての効果も感じられるよう支援する。

作品は練馬区内施設へ展示し、利用児童やその保護者はもちろん、卒業し成人した元利用者や過去に勤務していた職員、学校関係者などを招待し事業所のみならず地域活動としての催しを行う。